

緊急枠 評価の実施について

2025 年 4 月
JANPIA 評価チーム

休眠預金活用法における制度では、自己評価を基本とした社会的インパクト評価を実施しています¹。本制度では、活動の成果を検証・可視化し、1. 国民の理解を得ること、2. 事業の資源配分に反映すること、3. 民間公益活動全般の活動の質の向上や発掘、並びに民間資金や人材の獲得に活用することを目的として社会的インパクト評価の実施を推進しております。

緊急枠は、実行団体と資金分配団体の契約期間が最長 1 年間であること、事業の緊急性より、早急に実行団体への助成を開始する事業を優先しています。緊急枠の特徴を踏まえ、本制度の社会的インパクト評価を土台としつつ、緊急枠で行う評価は以下のとおりです。

緊急枠の評価の特徴

- (1) 短期間での取組みとなる事業特性を反映し、評価では評価指標を必要最小限にとどめて自己評価を行う。
- (2) 評価の実施時期は 2 回。(事前と終了時)
- (3) 事業期間中に達成するアウトプットを定量・定性的にモニタリングすることを重視²。

(1) 評価の実施時期と実施内容

原則、「事前評価」「事後評価」の 2 つの段階で実施します。

実施時期	力点を置いて実施すること	提出書類
契約直後	「事前評価」 ● 支援対象者の把握 支援対象者の支援ニーズ・規模、支援を届ける方法、必要な連携等についてヒアリングや基礎的データ収集等を実施し、客観性のある事実に基づいた把握を行ってください。 ● アウトプット指標の設定	事業計画書 (評価計画書なし)

¹ 「[休眠預金活動における社会的インパクト評価](#)」

「[資金分配団体・活動支援団体・実行団体に向けての評価指針](#)」

² 事業実施により支援対象者（や関係者・実行団体・地域等）にどのような便益や変化をもたらすことができたのかアウトカムの把握を希望される場合にはアウトカム指標の設定も行ってください。アウトカムを把握することは、事業の価値を高め、事業の継続・拡大につながります。

	・月1回のペース³で確認が容易、かつ事業で達成を重視する指標を設定してください。 ・支援対象者へ支援が届いていることを確認できるアウトプット指標を必ず含めてください。	
事業終了時	「事後評価」(事業終了時の評価) ● アウトプットの達成状況を自己評価します。 ● 事業の価値を自己評価します。 ● 支援の必要性が長期的に想定される場合には、支援の継続の確保状況を確認してください。	事業完了報告書

(2) アウトプット指標の実績に基づく進捗管理

支援の緊急性、及び一年間という時限性に鑑み、支援対象者への支援が確実に行われたかをアウトプット指標にて実績確認を行うことを特に重視します。アウトプット指標を測定することで、正確な事実確認を行い、支援対象者に支援が届いたかを確認していきます。

モニタリング実施時期	力点を置いて確認すること	提出書類
月1回の実施状況の確認	● アウトプット指標の測定による実績確認 ● 支援ニーズの変化等の把握・対応	● 指定なし ※アウトプット指標の一覧表等を作成し月次面談で確認することを推奨します。
事業中間時点での実施状況の確認	● アウトプット指標の測定による進捗確認 ● 支援ニーズの変化等の把握・対応	● 進捗報告書

アウトプットの実績が芳しくなく、支援対象者へ支援が届いていない状況が発生した場合や、支援対象者のニーズの変化等が起きた場合には、迅速かつ柔軟に活動を見直し、事業の所期の目的を達成するために適切に支援が届く形への修正を検討してください。

(3) その他

追跡評価、外部評価や第三者評価の必要性及びその実施については、JANPIAにてその必要性を検討のうえ、資金分配団体、実行団体と協議の上で決定します。

以上

³ アウトプット指標の数は作業負荷の観点から重要な指標に絞ってください。全ての指標を月1で把握する必要はありませんが、月1で少なくとも1つの指標について実績を確認できるようにしてください。